



森のなかま

2022年3月号
NO.165 (継続310号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《森林技術部会主催》

チェーンソー研修会

日時： 2022年1月23日(日) 9:00~15:30
場所： 松田町 やどりき水源林内
講師： 森林技術部会 岩田^⑭ 佐藤武^⑤ 滝澤^⑤ 石川^⑫ 江上^⑬
事務局： 鈴木^⑭
参加者インストラクター：13名

目的： 会の活動でチェーンソーを利用する方を対象に、チェーンソーの基本操作、安全確保の注意点と動作確認、チェーンソーを使用した各種作業（水平切り、縦切り、突込切り、受け口・追い口作り、枝払い、玉切り等）、ソーチェーンの構造理解と目立て等、体験～技能向上を目指す。

(記 末原 興一^⑯ 写真 鈴木 淳^⑭)

約2年ぶりの開催となった今回のチェーンソー研修会は、森林技術部会が現在活動の拠点の一つとしているやどりき水源林内のスギの植林エリアで行われました。比較的期の新しいインストラクターを対象に1班から4班まで計13名の参加者が受講しました。参加者は全員、伐木等安全衛生特別教育の受講修了者ですが、技術や経験はさまざま。多くはまだ経験の浅いメンバーです。基本的なことを一から学ぶ気持ちで研修に臨みました。初めに統括講師よりプログラムの概要とチェーンソーを扱う際の留意点、チェーンソーの構造や刃の特性等について配布資料とともに説明があり、実演を交えた複数の切り方や、枝払い、玉切りなど各場面における刃の入れ方、安全確保のためのポイント等について学びました。



今回の研修では、通常の間伐等での伐倒手順を確認しながら行う手法ではなく、チェーンソーの操作自体に慣れることに重点を置きやり方で進められました。各班のエリアには、切り株の上に予め玉切りされた練習用の幹が設置され、受講者は目の前の幹に納得できるまで繰り返し刃を入れ、チェーンソーの操作感覚を味わうことができました。ベテラン講師の指導のもと、切り口の確認や自身のくせを知ることで、



改善ポイントを客観的に理解し、さらにその場でリトライすることで、当日限られた時間内でも少なからず技能面で上達を図れたと思います。最後に伐木作業の運用効率を大きく左右し、また継続使用するためにも重要な、ソーチェーンの目立てについて、再度統括講



師より詳細な説明をいただき、そのノウハウを実践・確認して研修を終えました。

今回の研修のために当日まで複数回に渡り現地で準備を行っていただいた講師の皆様及び森林技術部会事務局の方々にあらためて感謝申し上げます。

森林インストラクターとして各方面で安全に活動するため、今回の研修は大変充実した有意義な内容でした。研修で得た知識と経験を糧に引き続き技術・技能の向上を図っていきたいと思います。

参加者一覧 敬称略 数字は期

大澤	10	山口	11	真貝	11	斎藤夏	13	牧石	14	石垣	15	末原	15
大友	16	大森	16	岡村	16	小林	16	中澤靖	16	堀口	16		

かながわ森林インストラクターの会紹介(ネットワーク派遣管理部)

「森のなかま」2月号から掲載している組織の紹介です。今回は、「ネットワーク派遣管理部」になります。

認定NPO法人「かながわ森林インストラクターの会」の主たる活動は、県民参加の森林づくり・パートナー企業や学校関係の森林活動へのインストラクターの派遣ですが、その調整を直接担っているのが、「ネットワーク派遣管理部」です。

- ① 会は、(公財)トラストみどり財団を経由して、県、市町村、をはじめとする様々な団体、グループからの派遣要請に対し神奈川県知事認定の神奈川県森林インストラクターを派遣します。かつては事務局が担当していましたが、活動の充実に伴いネットワーク派遣調整部が独立しました。
- ② 派遣要請に先立ち、日程、場所、参加者層、内容、タイムスケジュールや募集案内づくりまで、相談に乗り、支援・助言を行う「企画立案」も、現在はネットワーク派遣管理部で担っています。
- ③ 実際の流れは、各対象からの相談 ⇒ トラストみどり財団への「派遣要請書」提出 ⇒ 内容の調整 ⇒ インストラクターの募集 ⇒ 人選、メンバー決定 ⇒ 「派遣回答書」 ⇒ 下見 ⇒ 本番実施 ⇒ 報告・清算 となっています。
- ④ 派遣内容は、森林づくり、自然観察、森林文化等、多岐にわたります。これを支えているのが事業部門の各部会ですが、常に派遣に対応できる研修等を実施しスキルアップを図っています。部会からの支援、連絡調整は派遣内容や人選の大きな力になっています。
- ⑤ 「県民参加の森林づくり」については財団と協力し、1年分の派遣体制を年度初めに決定します。令和4年度は全20回、参加予定人数1600人に249人のインストラクター配置が計画されていますが、現在調整中です。

ネットワーク派遣管理部の活動は、「派遣要請」とそれにこたえるインストラクターに支えられています。「感染症」の影響で先が見えない昨今ですが、一段落した後には必ずや「緑」に目が向き、より私たちの活動が求められるはずです。県環境農政局水源環境保全課、(公財)かながわトラストみどり財団と一体となって、県民の要請にこたえられるよう努めます。

(記 NW 派遣管理部長 野牛 雪子⑧)

活動短信

今回の掲載はR3年11月28日から12月12日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

3月(弥生)(旧暦2月如月)の

二十四節気と七十二候

啓蟄 3/5 頃

冬ごもりしていた虫やカエルが出てくる。桃が咲き、蝶が舞う頃

春分 3/20 頃

スズメが巣を作り、桜が咲くころ。時に春雷が鳴ることも。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスみどり財団、(看) 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 県民参加の森林づくり(除伐)

日 令和3年11月28日(月) 8:30~13:00 晴れ

場 秦野市千村(頭高山)

参 59名

財 大木様、古館様

看 佃様

スタッフ 秦野市環境共生課 腰塚様、頭高山共有林組合 石井様、谷様、県森林組合連合会 岡本様

イ L湯浅①、佐藤⑤、小野⑦、内野⑨、上宮田⑪、山下⑪、西出⑫、古館⑬、大原⑬、末原⑮、中澤⑯

秦野市が推進する「植樹」・「育樹」・「活樹」事業の中の「育樹」にあたる作業の一つとして、今年も約60名の参加者を集めた頭高山での森林づくり活動が快晴の下開催されました。今回は主に北西斜面に生育する小径木を対象に、用意されたノコと剪定ばさみを駆使して除伐作業を行いました。参加したボーイスカウトのメンバーは、道具の扱いに初め戸惑いがあったものの、徐々に要領を得たのか、終了する頃には伐木のほか、枝払いや集積など、次々と処理できるようになっていました。

一方、経験者の多い班では、担当エリアの作業を早々に完了してしまい、当初予定外のエリアの整備まで行っていました。複雑に絡んだツルや棘のついた枝などに苦戦しつつも、時間内に作業は無事完了し、作業後の現場からは澄んだ空気の向こうにくっきりとした箱根や足柄の山々を拝むことができました。

赤や黄に染まり始めた広葉樹のほか多様な植生の見られた頭高山ですが、一方でナラ枯れ木は少なからず存在し厳しい現実を目の当たりにしました。頭高山を含む千村地区は「八重桜の里」として知られ、地元で製造される桜の塩漬は江戸時代から続き、現在全国シェアの8割にもなるとのこと。開花時期はソメイヨシノよりやや遅くなるそうですが、収穫も開花とほぼ同時に開始されるため花見が可能な期間は短いそうです。これからも頭高山の自然と一年の営みに注目していきたいと思えます。

(記 末原 興一 ⑮)

◆ 県立みどり養護学校新栄分教室

～環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

「木がため込んでいる二酸化炭素の量を測ろう」

日 令和3年12月1日(水)10:00~12:30 晴れ

場 横浜市都筑区新栄町1-1 県立新栄高校内

参 養護学校高校2年生12名、教師1名

イ L井出①、足立④、内野⑨、大原⑬

木の太さを測ることで、木が1年間に貯めこんでいる二酸化炭素の量を割り出し、木の基本的な役割である二酸化炭素の吸収と蓄積を体験的に学ぶ。

1. 事前打合せの際、教師とインストラクターで選木と番号付けを行った。(11月25日)

2. 授業当日

① 教室で授業内容、調査方法の説明を行った。

② インストラクター1名に生徒3名になるようにグループ分けを行い、校庭に出て樹木の太さを測定した。そして、樹木の太さから導かれる二酸化炭素の年間吸収量を割り出し、調査表に記

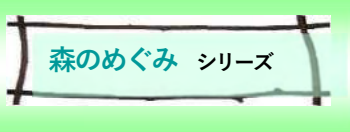


入。さらに、測定したネズミモチの名前の由来など樹木の特徴などについて解説を行った。

- ③ 測定した個々の樹木の吸収量をパソコンに入力し、学校林全体の二酸化炭素吸収量を算出。これと、自動車1台、および人間1人の二酸化炭素排出量の比較を行った。身近なものと比較して、樹木の二酸化炭素の吸収量がどの程度のものか気付せることができたのではないかと思います。
- ④ パワーポイントで光合成や地球温暖化を防ぐための森林の役割について解説を行った。

(記・写真 井出 恒夫 ①)

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載は4月号です。



◆横浜市立四季の森小学校

宿泊体験学習 「枝打ち」

- 日 令和3年12月3日(金) 9:50~11:40 曇り
- 場 21世紀の森 平成25年成長の森
- 参 45名(5年生生徒41名 教師4名)
- 財 豊丸課長様、古舘様
- イ L 牧石⑭、柏倉④、小野⑦、西出⑫、堀口⑯

初冬の気持ちの良い快晴のもと、県立21世紀の森にて森林環境教育と枝打ち体験が実施されました。

概ね予定通りの時間に大型観光バス2台に分乗し21世紀の森駐車場に到着。整列後集合の挨拶とインストラクターの自己紹介を行う。

前日に学校側より今回の森林環境教育に関しての30問の質問表を受領していたため、牧石リーダーより回答を行った。

各班に分かれ枝打ち道具の装着を行い、枝打ち林までの移動中にも森の様子などを見ながら解説を行う。



今回枝打ちを行う成長の森の看板の前で事業内容の説明や自分たちの年齢に近い木であることを説明し、植樹間もないエリアとの成長の違いを併せて説明を行った。

林内では担当する児童を2班に分けて各班より1名

ずつ枝打ちの指導を実施。鋸の使い方や枝打ち時の注意点、目指す林様などを伝える。図工の授業で鋸を使用した経験もあり、細い枝が多く苦勞することなく体験を重ねることができた。

作業終了時間に合わせて枝打ち作業を終わらせ、枝打ちした後にどのような材となるか、なぜ枝打ちが必要となるのか、間伐の必要性など人工林の管理についても説明を行った。

(記 堀口 俊司⑯、写真 牧石 稔⑭)

◆日揮グループ 水源林保全活動

- 日 令和3年12月4日(土) 9:00~15:00 晴れ
- 場 やどりき水源林
- 参 12名(大人:9名 子供:3名)
- イ L 若林⑦ 宮下⑩

晴渡った空にキーンと冷たい空気。やどりきの紅葉も終盤に差しかけた当日。参加者様も楽しみにしていたと嬉しい言葉をいただき、スタート。

午前中は森林癒やし体験の散策。

紅葉のきれいな時期、座って視線を低くしてのんびりと鑑賞する『座観』で、私は『見る』のではなく『見て感じたことを味わってみてください』と話すことが多いので

すが、『味わう』と「きれいだねー」「いろんな色があるねー」など言葉が自然とでてきてご家族同士で共感している姿が印象的です。ご家族同士が楽しげに話す姿を後ろから眺めているとこちらまで幸せな気持ちになります。



森の中で寝転がる「樹幹のゆらぎ」では体が冷えて寒くなってしまうので、参加者様が持参したジャンパーを使って木漏れ日のある場所に寝いただきました。皆さん、木漏れ日スポットを探すのに夢中です。日差しの中で横になりあたたかく気持ちよい体験をしていただけました。

午後はリースづくりです。

オリエンテーションで『今日はどんなリースを作りたいか』の問いに、「立派なリースを」「長く飾れるものを」「プレゼントにします」など、皆さん気合の入ったお答えに答えられるよう「しっかりとしたもの。また、材料をお渡ししますので帰ってから追加の

飾りつけや補修もできるように教えていきます。」と答え活動に入りました。

皆さん思い思いに作りはじめ、完成した時には納得したものができたようです。帰ってからも補修したり追加したりできるので「帰ってからも楽しめる」「うれしい」など好評でこちらも頑張って準備した甲斐がありました。



(記・写真 若林 良子⑦)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第15回 県民参加の森林づくり 除伐・竹林整備

日 令和3年12月5日(日) 8:00-13:20 曇り

場 中井町比奈窪(中井中央公園)

参 62名(男性 54名、女性 8名)

財 大木様、寺本様

看 佃様

スタッフ 南足柄市森林組合 米山様、湯川様。
中井町産業振興課 上木様

イ L 齋藤⑧、石川⑫、相馬⑤、真貝⑪、稲辺⑤、大橋⑪、
久保⑧、斉藤⑬、水野⑭、大原⑬、水津⑨

安パト 岩田⑭、湯浅⑪

昨年に引き続き除伐の予定でしたが、なら枯れの影響で倒木の危険があるために、同じ公園内で場所を変えて、活動を行いました。当日は、曇天の寒い朝を迎えましたが、日中は雨も降らず、活動には最適な気候となりました。

62名の参加者を5班に分け、1、2、3班は、竹林整備、4、5班

は、除伐と竹の伐採作業を行いました。活動前と後で明るさが違う竹林となり、参加者に達成感を感じて頂きました。参加者からは、来年のタケノコシーズ



Before (藪漕ぎの状態でした)

ンに活動を計画して欲しいとの要望もでした。

最近の県民参加の森林づくりの活動は、初心者、若者等の参加が多くなり、ベテランの減少が、感じられます。新しい人が、常連メンバーになる魅力のある活動を心掛けたと今回改めて思いました。



After (スッキリしました)

(記・写真 水野 安則⑭)

◆ 横浜市立六つ川台小学校 枝打ち

日 令和3年12月7日(火) 10:00-14:10 曇り

場 21世紀の森 成長の森25年度植樹場所

参 42名(5年生児童38名 教師4名)

財 古舘様、藤本様

イ L 内野⑨ 野牛⑧ 牧石⑭ 久次米⑯ 大友⑯

12月初旬にしては暖かい陽気で絶好の活動日和。予定より30分早く児童達を乗せたバスが到着しました。4班体制で平成25年度(2013年)「成長の森」(神奈川県産無花粉スギ)の枝打ち作業エリアへ向かいました。作業前に「成長の森」は子どもの健やかな成長と苗木の成長を重ね合わせながら参加者が植樹を行い、その後は神奈川県が責任を持って育てていることを説明。そして私達ちが、ここまで育った大切なスギをさらに成長をさせる重要な枝打ち作業を行うこと(今日のミッション)を児童に伝えました。

植栽木は児童達と同じ位の樹齢のもので、樹高約4m、直径15cmほどに成長しています。林内は根本から頭上に向かって枝葉が張り出し、周囲はうす暗く感じられます。児童たちは横一列になり、順番に一人が一本の枝打ちを行いながら奥側へ移動。初めは枝打ちノコを上手く使えませんでした。枝打ちのポイントを指導してあげると上手く出来るようになり、褒めてあげると得意げな顔で作業を行う児童の姿が印象的でした。順番待ちの間は、皆が協力して打ち終えた枝の整理や切り残しや、でべそになった枝座の調整をするなど林内整備を行いました。約1時間30分程の作業で、見通しが良くなり薄日が差しこむ林内に改善され、児童たちは見上げながら「わぁー空が見えるようになった!」と歓声を上げていました。

昼食後、児童達は館内での小枝工作（クラブトキット）と代表による丸太切り体験（資材は財団用意）を行いました。

半日の森林体験でしたが、児童たちと一緒に楽しく森林整備を安全に終わることが出来ました。学校関係者および財団のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

（記 大友 博道⑩）



◆ 大和市立草柳小学校 社会科間伐体験

日 令和3年12月10日(金) 11:00-13:00 曇り後晴れ

場 相模原市緑区長竹 承継分収林

参 小学5年生 生徒64名、教師7名、カメラマン1名

財 豊丸課長、藤本様

イ L松本⑪、柏倉④、佐藤⑤、松山⑩、西出⑫、
牧石⑭、大友⑯、岡村⑰、小林⑱

当初7月2日の活動予定であったがコロナ禍の影響で12/10に延期された。下見は6月に終わっており、実施までの長い空白期間があったが、学校とはFAXで主連絡を行い、確認/QAは放課後等に携帯電話（会話とSMS）で行った。熱心な担当先生なのでスムーズにコミュニケーションがとれた。

当日はバスが事故渋滞にあり、学校への到着が遅れ、結局約一時間の遅れとなった。

事前で学校とは遅れの場合にはコースター作り無しということであったが、インストラクター皆さんには間伐のみ/コースター作りのみのどちらが良いかと意見を求めた

ところ、子どもたちが間伐を直接行うケースは世間では稀有なので間伐が良いと意見を頂き、迷いの出ていたリーダーは力強い意見頂き、メンタル的に助かった。



間伐作業は方法説明→伐倒方向決め→ロープ掛け→受口切り（全員）→追口切り（全員）→決め追口切り

（できる子1～2名）→ロープ引き（ほぼ全員）倒木→枝打ち/丸太切りと行った。スムーズにいった班もあれば掛かり木で苦戦した班もあった。

体の弱い子が1名いたが学校より事前に連絡があり、先生が専任でフォローしていた。生徒たちは時々、その子に励ましの声かけをしていた。また、掛かり木で苦戦している班には先に作業が終了した班の子らが頑張れの掛け声もありとても思いやりのある学校だという印象が各所で見られた。本活動は担当先生方も生徒達もとても満足の様であった。

（記・写真 松本 保 ⑪）

◆ 二宮町立一色小学校 学校林の整備

日 令和3年12月10日(金)8:50～12:30 晴れ

場 二宮町立一色小学校 学校林

参 51名(大人8名 子供43名)

財 寺本様、古舘様

イ L野牛⑧ 徳岡⑪ 石垣⑱

校庭に続く坂道を登るとそこが学校林『友情の山』今日の活動場所です。

1、2限目：1年生20名が中庭に集合。

どんぐりを手に「芽が出るのはどちらから？」「根っこはどこから？」と悩んだ後、正しい位置を学び2粒ずつ各自ポットに埋め観察用にしました。その後『友情の山』の一番日当たりの良い場所に見本に持ってきた苗5本・どんぐりを何十粒も植えました。さてどれだけ育つか？

3、4限目：4年生23名がノコギリ班と鎌班に分かれての作業です。

ひこばえ切り・下草刈にことおっかなビックリの手つきは直ぐに消え「もっと切りたい！」やる気満々の使い手誕生です。作業後は、熱心な質問の手が上がり、また「中休みの時間に手入れをしたい！」の希望も出『自分達の山』という気持ちを持ってくれたことを感じました。短い時間でしたが、今後の野外授業としての広がりを考える活動となりました。



（記・写真 石垣桃栄 ⑱）

◆ やどりき近辺ハイキング 高松山

「JR 松田駅～高松山～田代向(バス)～新松田駅」

日 令和 3 年 12 月 12 日(日) 晴れ

場 JR 松田～高松山～寄(虫沢古道)～田代向

参 7 名 菊地①、杉崎⑩、古舘⑬、鈴木⑭、
飛田⑮、石垣⑯、上宮田⑰

インストラクターの研修・懇親も兼ねやどりき周辺の山や自然を知る事を目的として企画。森の案内人活動の一助となれば幸い。大先輩からガイドの実践研修も頂き「一期一会の錦秋」を満喫いたしました。

ご参加の皆さんからのコメントもお楽しみ下さい。

ブラボ～ さんから

「コース、時間管理、メンバー等全て最高でした。楽しかった。二度と来ない大切な一日、参加することが出来た幸せ。感謝です。足腰の疲労感の快さ、忘れかけた感慨です。

講義開催希望 さんから

ブラボ～さんの植物や木々観察の実践は目からうろこの連続で、大変勉強になりました。座学(含む実習)で講義をやっていただきたいと思いました。



アンビリーバボ～！ さんから

天気よし・コースよし・富士山絶景なり！と3拍子揃ったほんとうに幸せな時間となりました。そしてメンバーのお人柄楽し！です 駄洒落ふんだん・掛け合い漫才あり・笑い声絶えず、また沢山の観察や説明をして頂き「おおっ！」と発見・驚きに満ちたのに時間通りに終わるなんて、アンビリーバボ～！

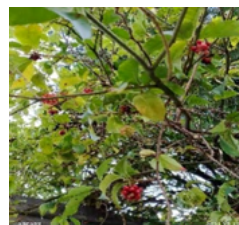
このハイキングを愉しみにしていた私は、降るよう

な紅葉の下「晩秋の山歩きを堪能」、最明寺の池の淵に立ち、未だ知らぬ春爛漫」に心躍らせ、その景色を待ち侘びることとなりました。

介護に勤しむ日々

あきらめかけていた 錦秋に感動 さんから

「前半は箱根全山と富士山の素晴らしいながめ、後半は表丹沢山稜を一望、と、大変贅沢なコースでした。様々なカエデの紅葉も楽しめて、今後のやどりき事業部の公開イベントに期待が膨らみます。ありがとうございました。」



↑ビナンカズラ



↑飛べ！ウハユ

「虫沢古道の農家」さんから御自由にお持ちくださいと「鬼ゆず」を頂き心もホカホカで帰路へ！

(記・写真 参加者一同
取りまとめ 上宮田 幸恵 ⑰)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、3月から再開します。

森の案内人がお待ちしております。
水源林にお出かけください。

3/12(土)に「やどりきの森へ行こう」イベントが開催されます。詳しくは、下記参照願います。

●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫 (11月号から)

Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

は随時受付けています。

編集後記

★最近TVを見てもネットの記事を見ても日本語の劣化を感じています。

思い起こせば「朝ごはん」論法。これを論法と読んであたかも正当な解釈じゃないかを書いてあった辺りからおかしくなったんじゃないかと推察するのですが。どうやっても意味を意識的にずらし、それでOKとしてしまうのは、芸人の話芸じゃないんですから、どうやっても正確な意味(ここではより具体的な意味を意図しています)をはっきりさせることが必須だと思います。

最近の「安心・安全」や「徹底用心」も具体的なイメージが今一つ湧きません。それと英語からのカタカナ表記。単語のより正確な意味づけなしで、雰囲気だけ膨らませる。何がそうだかは不明確なまま。言語の意味は時代によって変遷するのは分かるけど、意識的に目くらしをかける用語の使い方が最近はこちらで多くなっている。

なんとなく「それらしい」ですませてしまう現在に大なる不安感を覚えています。

(吉田)

★5年前に、やどりきの蠟梅祭りに誘った友人から、淡い黄色の花の写真が送られてきました。友人は一面に広がった花と香り、やどりきの里の風景を見たくなったとのことでした。やどりきの良いところが伝わった嬉しい春の便りでした。(笠原)

★近くの里山ではロウバイが咲いています。その下にふきのとうを見つけました。昨日あたりから鼻がムズムズしています。医者に行くとコロナの抗原検査をされました。今年ももう、そこかしこに春が来ています。(武田)

★今年は、例年に似ず寒い日が続いています。おかげで近くの公園の田んぼでのアカガエルの産卵も遅く、ようやく2月下旬から少しずつ見られるようになりました。今年桜の開花も遅いかな? (黒川)

<やどりきの森へ行こう : 群生するミツマタの開花を観察>

恒例のミツマタ観察を開催いたします。

ご家族、お友達に声をかけていただき、ぜひ多くの方の参加をお待ちしております。

- ・開催日: 3月12日(土) 少雨決行
申込締切: 3月5日(土)
- ・場所: やどりき水源林
- ・集合: 小田急小田原線新松田駅北口に8時30分
※新松田駅~やどりき水源林ゲート間はバス送迎
(バス代は各自負担:片道620円)
- ・申込: 水口へメールにてお願いします。
E-mail: minagold109@kj.d.biglobe.ne.jp



年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子